

## 特集

# コロナ時代の BCPと産業保健

労働衛生対策の基本

## 健康教育とその実践

●中小企業の産業保健

増木工業 株式会社

一人ひとりの社員を大切にすることで  
ストレスのない健全な会社運営を推進

●どう取り組む？ 治療と仕事の両立支援

二九精密機械工業 株式会社

「家庭が一番！ 仕事はその次！」  
社員が安心して働けるからこそ、  
会社も業績を上げられる

●衛生委員会活動事例報告

株式会社 神戸デジタル・ラボ

職場環境アンケートの結果を深掘りし  
委員会主体で数々の施策を生み出す





# 「家庭が一番！仕事はその次！」 社員が安心して働けるからこそ、 会社も業績を上げられる

二九精密機械工業株式会社

二九精密機械工業は、1917年（大正6年）の創業以来、100年以上にわたって機械加工の分野で発展を続けてきた老舗企業だ。当初は仏具製造業として開業したが、その後加工技術を活かして一般的な産業機械にも進出。現在は特殊合金、チタンなどによる精密機械加工部品の製作をはじめ、世界で初めて商品化に成功したβチタンパイプの加工などの先進技術で、血液分析計の注射針や内視鏡のパーツなど、医療分野を中心に金属加工技術と製品を提供している。

同社では、取引先の安心、従業員の安心、協力会社の安心の「3つの安心」を経営理念として全社員で共有する中、「家庭が一番！仕事はその次！」という二九良三社長の思いをさまざまな形で制度化し、社員の健康と働きやすさを追求してきた。その結果、「健康経営優良法人」（経済産業省）に2017年から4年連続で認定されるなど、その取組は高く評価されている。



二九良三代表取締役社長

現在、同社にはがんの治療から職場に復帰した社員が6名、自宅療養中の社員が1名在籍している。その中の一人、執行役員の廣瀬正典さんのがんが見つかったことが、同社の治療と仕事の両立支援制度を大きく推進する契機になったという。

そこで、同社の両立支援への取組について同社の二九良三社長、大川智司専務執行役員、社長室の中久保さんにお話を伺った。

## 1. 絶対戻ってこられるのだから、 今は治療に専念しなさい！

廣瀬さんのがんが見つかったのは、2015年、会社の健康診断がきっかけだった。胸部X線画像に影が見つかり、最終的に肺がんとの診断を受け、医師から手術を勧められたのだ。

「当時、廣瀬さんは京都工場の責任者でしたから、自分の病気のために仕事を休むことにはかなり抵抗があったと思います。手術への不安とともに、自分がいなければ仕事が回らないという自負と責任感が大きかったのではないのでしょうか」（二九社長）。

そんな廣瀬さんを大きく包み、励ましたのが二九社長の言葉だった。「廣瀬さんを見舞った社長は、『絶対戻ってこられるのだから、今は治療に専念しなさい！』と励ましたそうです。厳しい言葉のようですが、『そうか、だったらしっかり治療して仕事に復帰しよう！』と廣瀬さんは治療へのモチベーションを高めることができたと言っています」（大川さん）。

社長の言葉で職場復帰に希望が持った廣瀬さんだった

が、実際に休職してみると支障が出た。

「廣瀬さんは入院中に問題がないように計画を立てていました。しかし、それまでひとりで抱え込んでいた仕事も多く、手術後2日目には、ベッドの上から工場にメールを送り、進捗状況を確認するという状態になってしまったのです。このことをきっかけに、廣瀬さんに限らず、上司が自分だけで仕事をこなすようなことがないよう、あえて部下に仕事を任せることで、成長とスキルアップを促すことを全社で徹底するようになりました」（大川さん）

その後同社では、残された部下などへの細やかな業務配分や情報共有によって、特定の社員だけに過大な負荷がかかり、業務が滞ってしまうことを防ぐため、現場へのヒアリングなどを徹底して行っている。

## 2. 入院手術見舞金制度で治療中の 経済的不安を取り除く

前述のとおり、同社では現在までに7名のがんなどから復帰、あるいは復帰を目指している。これを後押しする制度として、2017年1月から創設した「入院手術見舞金制度」がある。全額会社負担で団体用総合医療保険に加入することで、入院や手術の際、入院給付金を1日5千円、入院療養給付金を1回2万5千円、入院中の手術1回に10万円、などの給付金が会社を通して支払われる。

「会社にとって大切な働き手であり、家庭でも頼りとされる存在が、がんになってしまった時に、本人やその家族の不安を少しでもやわらげられないか、をさまざまに検討して導入を決めました。経済面が不安で、収入を得るために治療を後回しにして仕事を続けてしまう、ということもなくしたかったのです」と二九社長。

こうした制度を整備することで、大病を患っても、それを直接的な原因として退職する社員はいなくなったという。また、復帰を目指している社員に対しても、前職にこだわることなく、回復の度合いに応じて、なにかしら働ける機会を提供したいと考え、業務内容の検討を始めている。

## 3. 日頃の安全・健康情報共有が コロナ禍でも活きる

また、同社では日常的に産業医の指導のもと、安全衛

生委員会を中心として、全社的に社員のヘルスケアや健康管理について活発に情報共有を行っているが、この活動の成果が大きく現れたのが、今回の新型コロナウイルス対策である。

もともと社員の情報共有手段として、社員だけが閲覧できるイントラネットを導入していたが、新型コロナに関する情報があまりない時期から、ここに「新型コロナ対策情報」をいち早くアップした。ここには感染防止対策や、自分とその家族などに感染や濃厚接触などの可能性が疑われる時の行動や連絡先について、詳しく知ることができるワークフローなどの情報が整理されている。これは安全衛生委員会だけではなく、社長室や総務部など管理部門が協力し合い、情報を持ち寄り、正しい情報かどうかを判断し、産業医や公的機関とも相談しながら検討したものだ。

「このスピードは、直接的な担当である安全衛生委員会だけで議論・作成していたのでは出なかったかもしれません。状況が激しく変化する中では、情報を完璧なものにしてからアップしようとするのが後手に回ってしまいます。だいたい50%ぐらいできたらアップして、それを状況の変遷、他の従業員からの指摘や提案をふまえて少しずつブラッシュアップしていく、というスタイルで進めたからできたことだと思います」と語るのは、社長室の中久保さん。

「治療と仕事の両立支援に限らず、新型コロナへの対応にしても、基本には私の『家庭が一番！仕事はその次！』という強い思いがあります。よく『そこまでの対応は中小企業では難しい』という意見も聞きますが、社員を大切に、安心して働いてもらうことによって、はじめて企業も業績を上げることができる、という根本の部分は変わらないと思います。今後も公平性には配慮しながら、介護や看護をしながら在宅で勤務できるようにするなど、さまざまな働き方を模索し続けていきたいと思っています」と、二九社長は力強く語った。

### 会社概要

二九精密機械工業株式会社  
事業内容：メディカル・分析・産業機器・一般工業製品のコア  
機構部の開発、設計、製造、加工、販売  
設立：1953年（創業：1917年）  
従業員：209名（2020年8月現在）  
所在地：京都府京都市